

《解説》

能 蟬丸

延喜帝第四皇子、蟬丸ノ宮(ツレ)は、生來の盲目であった。あるとき勅命により、蟬丸は帝の侍臣藤原清貫(ワキ)に連れられ、逢坂山に捨てられる。嘆く清貫を蟬丸は、後世を思う帝の寂慮だと論ず。その後、清貫は蟬丸の装束を脱がし、剃髪して出家の身とし、蓑笠、杖を渡して涙ながらに立ち去る。残された蟬丸が琵琶を抱いて泣き伏す姿を見、痛ましく思った源博雅(アイ)は、藁屋を建て慰める。一方、延喜帝第三の御子、逆髪ノ宮(シテ)は、生まれながらに空へ生え上る髪を持ち、狂乱の身となり諸国をさまつていた。逢坂山にたどり着いた逆髪が、藁屋から漏れる琵琶の音に足を止め聴いていると、人音に気付い

た蟬丸に声をかけられる。弟の蟬丸が中になると気付いた逆髪は、姉であると名乗る。二人は再会を喜びつつも、互いの境遇を話し、嘆き合う。やがて二人は再会を約束し、名残惜しみながらも逆髪はあてもない旅に出、蟬丸は遠ざかる姉の声を聞きながら一人佇むのであった。

狂言 茶壺

酒に酔って道端で寝転がっている田舎者の茶壺を、すっぱ(騙り者/盗人)が盗もうとするが、田舎者は茶壺の右の肩紐を握り締めていて離さない。すっぱは一計を案じ、左の肩紐に手を入れて後ろ合わせに寝ることにする。やがて目覚めた田舎者とすっぱは、どちらの茶壺か言い争いをする。通りがかった目代(代官)が両者の言い分を聞き、さらに茶を詰めた記録を舞い謡わせるが、すっぱが田

舎者の真似をするので判断がつかない。困った目代が下した判断は：

能 杜若

廻国の旅僧(ワキ)が東国行脚の途中、三河国で足を休めていた。僧が沢辺に咲く美しい杜若を眺めていると、一人の女(シテ)が言葉を掛ける。ここはどこなのかと僧が訊ねると、女は杜若で有名な八橋だと答え、八橋のいわれや伊勢物語にある在原業平の杜若の歌について語り、やがて自分の庵へと連れ帰る。庵に帰ると、女は美しい冠と唐衣を着けて現れ、それらのいわれを問われるままに語る。僧が怪しむ女の素性を訊ねると、自分は杜若の精であると明かす。そして、女は伊勢物語の故事をのべ、舞を奏した後、消え失せるのである。

<注意事項>

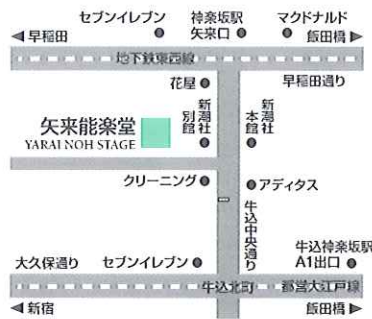
- ・入場券のお申込みは、観世九阜会事務所ならびに当会能楽師が承ります。
- ・当日券は、残席ある場合のみ当日正午より会場受付にて発売いたします。完売の際はご了承ください。
- ・お求め頂いたチケットの払戻しおよび指定席のお取替えはできません。
- ・未就学児の入場は原則的にお断りさせていただきます。
- ・本番組記載の演日・演者等はやむを得ない都合により変更になる場合がございます。
- ・許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切りください。演能やほかのお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場していただく事もございますので御了承ください。
- ・地震や停電等の影響により急遽変更になる場合がございます。情報は随時ホームページをご覧ください。

入場券料	正面指定席	6,000円
	脇・中正面指定席	5,000円
	自由席	4,000円
	(※パイプ椅子または座布団)	
	学生券(自由席のみ)	2,000円

発売日4月8日(日)

一回券は、前月の定例会当日に矢来能楽堂受付にて発売いたします。(お電話でのご予約は9日(月)から承ります)

お問い合わせは・お申し込み
162-0805 東京都新宿区矢来町60番地 社団法人 観世九阜会
TEL 03-3268-7311 FAX 03-5261-2980 yarai@eos.ocn.ne.jp



地下鉄東西線神楽坂駅下車 矢来口より徒歩2分
都営大江戸線牛込神楽坂駅A1出口より徒歩5分
駐車場はございません。近隣のコイン駐車場をご利用ください。

能・狂言
Noh Kyogen
観世九阜会
かんぜきゅうこうかい
矢来能楽堂
162-0805 東京都新宿区矢来町60

<http://www.kanze.com/>

表紙写真 十寸壁 撮影 青木信一



能・狂言 観世九阜会

平成24年5月13日(日) 午後1時始(正午開場)
於 矢来能楽堂

Noh Kyogen
KANZE KYUKOHKAI
13 May, 2012 (sun) Yarai Noh Stage
13:00 start (12:00 open) English program available

五月 定例会

平成二十四年五月十三日(日) 午後一時始 於 矢来能楽堂
番組

能 蟬丸

Schimaru

ツレ 鈴木 啓吾
シテ 長山 禮三郎

ワキ 森 常好 大鼓 佃 良勝
ワキツレ 館田 善博 小鼓 幸 正昭 笛 寺井久八郎
ワキツレ 森 常太郎

間 野村 扇丞

後見 古川 充
五木田三郎

地謡 中森健之介 佐久間二郎
桑田 貴志 観世喜正
長山 耕三 弘山 裕一
小島 英明 中所 宜夫

休憩十五分

狂言 茶壺

Chazubo

シテ 野村 万蔵

アド 野村太一郎
小アド 野村 萬

後見 野村 扇丞

道明寺

観世 喜之

仕舞 藤 坂 真太郎

昭君

小島 英明

地謡 中森健之介
観世 喜正
遠藤 六郎
遠藤 和久

休憩十分

能 杜若

Katsumabara

シテ 遠藤 喜久

ワキ 高井 松男

大鼓 大倉慶乃助 太鼓 梶谷 英樹
小鼓 大倉源次郎 笛 松田 弘之

後見 桑田 貴志
永島 忠修

地謡 坂 真太郎 奥川 恒治
長山 耕三 中森 貫太
古川 充 駒瀬 直也
佐久間二郎 遠藤 和久

附祝言

次回予定番組

平成二十四年六月十日(日)

午後一時始 於 矢来能楽堂

能 小袖曾我

観世 喜正

能 鶉飼

古川 充

【好評発売中】

権藤芳一著 能楽手帖

新書判・三〇四ページ
定価一四七〇円(税込)

五流を通じて上演される機会が多い一三〇曲の、「登場人物」「面・装束」「演能時間」「曲の概要」を紹介。ルビを多用し、舞台写真も載せて、観能の手引きとなるように編んだ。

巻末に「能の歴史」「能舞台」「能の流派」「能の面」「能の扮装」「用語解説」を付した。

柳沢新治著

横から見た能・狂言

四六判・二二三ページ
定価二一〇〇円(税込)

長年、NHKの能楽放送に携わった著者が著した、放送うらばなし、歴史の中の能、出会いと別れと、能楽水先案内、新作、能・狂言・琵琶、推理小説「能舞台の目撃者」を一冊にまとめた好読み物。

〒101-0051 千代田区神田神保町三十一

能楽書林

電話〇三(三三二六四)〇八四六
FAX〇三(三三二六四)〇八四七
Eメール shorin@mercury.plala.or.jp

(終演予定午後四時五十分頃)

(午後三時四十分頃)